



令和7年度

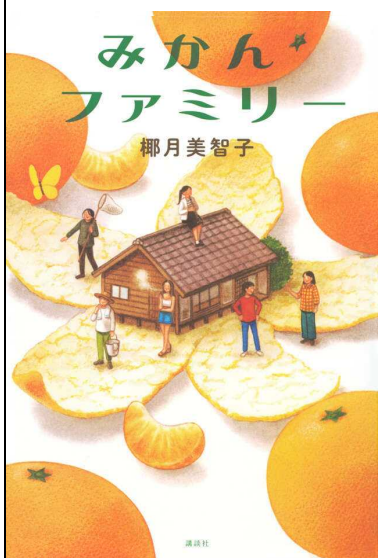
茨城県優良図書紹介【中学生向け】



『あなたの国では』

小手鞠るい （さ・え・ら書房）

旅行作家が、男の子の「ほかの国ではどうなっているのかなあ」という何気ない言葉の答えを見つけようと、世界中の国を旅しながら、17名にインタビューをしていくストーリー。本当の幸福とは何だろう、ということに気づかされる物語である。



『みかんファミリー』

椰月美智子 （講談社）

母が同級生と古民家で共同生活をする事になり、同居することになった2組の3人家族6名が、困惑しつつも、徐々にそれぞれの持ち味を認め合うようになるが、その中心にいた祖母に異変が生じる。困難を乗り越え、家族として成長していく感動の物語である。



『12音のブックトーク』

こまつあやこ/作、友風子/絵 （あかね書房）

小学校での失敗から、猫をかぶって過ごしている主人公が、他校の生徒と入れ替わる不思議な体験を通して、本の紹介をするブックトークをすることになり、自分らしく生きることを取り戻していく心温まる物語である。



『今日も誰かの誕生日』 二宮敦人（光村図書出版）

誕生日をめぐる6つのストーリーからなる内容で、誕生日を祝ったり、祝ってもらったり、はたまた災難にあったりするそれぞれの物語に、心がほっこりする。最後のストーリーには、5つの物語にもつながる内容が盛り込まれている。



『透明なルール』

佐藤いつ子（KADOKAWA）

クラスのグループの中では、本当の自分を隠して生きていることに息苦しさを感じている中学2年生の主人公が、不登校気味の転校生や、ちょっと頼りない級友との交流を通して、自分自身で作る透明なルールに縛られていることに気づき、勇気をもって自分を変えていこうとする物語。



『私は食べるのが下手』

天川栄人（小峰書店）

食事に苦手意識のある主人公が、過食嘔吐を抱える生徒、宗教上の理由で食べられない食品のある生徒と共に、栄養教諭の先生から提案された「給食革命プロジェクト」で食に向き合う体験をしていく中で、自分らしく生きることの価値に気づいていく物語。



『学校に行かない僕の学校』 尾崎 英子 (ポプラ社)

ある出来事から氣力を失い、学校に行けなくなった主人公が、森の中の全寮制のフリースクールで、新たな生活を始める。自然豊かな環境で、周囲の人との交流を通じて、主人公が自分と向き合い、一歩踏み出す勇氣を得て行動に移していく再生の物語。



『それはわたしが外国人だから？ 日本の入管で起きていること』

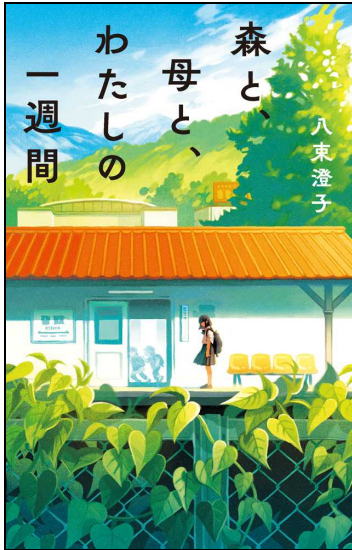
安田菜津紀/著、金井真紀/絵・文 (ハウレーカ)

多様性が掲げられている日本において、日本以外の国籍をもつ人や外国にルーツをもつ人たちの中で、人間らしい生活ができない状況に追い込まれている4人の事例から、日本の「入管」や難民制度について問題提起する一冊です。



『やなやつ改造計画』 吉野万里子 (あすなろ書房)

ふとしたきっかけで中学校の生徒会長に立候補することになった主人公が、選挙を勝ち抜くため取り組む「自分改造計画」。生徒会長になって、様々な出来事や友人たちとの交流を通じて、主人公の成長が生き生きと描かれている。



『森と、母と、わたしの一週間』 八束澄子（ポプラ社）

毎日が何となく息苦しいと感じる主人公が、「風によばれて」訪れた山に囲まれた小さな町で一週間過ごす中で、母や森の幼稚園での子どもたちとの触れ合いを通して、自分らしさを取り戻す回復と再生の物語が生き生きと描かれている。